

増刊

2024年10月発行号 (Vol.42 No.17)

全身を覆うマイクロバイオーム 総体として捉え、疾患制御へ

(仮題)

編集／長谷耕二 (慶應義塾大学)

関連キーワード・技術

- ◆ 腸内細菌叢 ◆ 口腔細菌叢 ◆ 皮膚細菌叢 ◆ 常在微生物叢 ◆ 真菌叢
- ◆ バイローム ◆ 免疫制御 ◆ 腸脳相関 ◆ がん免疫 ◆ 感染症 ◆ 免疫疾患
- ◆ 代謝性疾患 ◆ マイクロバイオーム創薬 ◆ ファージ療法

『実験医学』誌は、これまでヒトの腸管内、皮膚、口腔内に存在する微生物叢に関する最新の研究をお届けし、たいへんご好評をいただいております。従来は主に細菌が研究対象とされてきましたが、近年の遺伝子解析技術の進歩により、微生物叢に含まれる真菌(カビ)やウイルスの詳細な解析が可能となりました。これにより、細菌・真菌・ウイルスを含む総体である「マイクロバイオーム」を包括的に捉える研究がさかんになっています。解析技術の進歩は、微生物と人体との相互作用の研究にも大いに貢献しており、全身のマイクロバイオームと健康・疾患との密接な関係が次々と報告されています。これに伴い、治療応用の進展も加速しています。本号では、微生物の生物種と常在する臓器という2つのベクトルで著しい展開を見せるマイクロバイオームと健康の関係に迫る最先端の研究を一冊に集約しました。アカデミア、医療、創薬、ヘルスケアなど、さまざまな領域の方々にお役立ていただける内容となっております。貴社の優れた機器・試薬のPRに本誌をご活用いただけましたら幸甚に存じます。(編集部より)

本号へのご出稿のポイント

- 売れ筋テーマ「常在微生物叢」5年ぶりの増刊号
最先端の関連研究を集約&アップデート! 多様な領域の読者へのPRが可能です
- 分子生物学会(11月27日~)をはじめ、幅広い学会で出品予定

広告料金表

ページ広告			
掲載面	刷色	スペース	掲載料金
表紙4	4色	1P	330,000
表紙3	4色	1P	220,000
	1色	1P	165,000
表紙2	4色	1P	275,000
	1色	1P	187,000
中付※ (記事中)	4色	1P	165,000
	1色	1P	121,000
後付	4色	1P	165,000
	4色(ブリード)	1P	181,500
	1色	1P	99,000
	1色	1/2P	60,500
差込		1枚	220,000
タイアップ広告 (記事広告)	4色	2P	掲載費330,000 編集費88,000

※ 掲載頁をご指定の場合は10%増の費用を申し受けます
 ※ 中付(記事中)は1カ所につき1団体1頁のみ掲載可能です
 ※ 表示価格は10%税込の価格です

発行概要

発行部数 6,000部
 発行形態 B5版,フルカラー,オフセット印刷
 発行予定日 2024年10月18日(金)
 広告申込締切 2024年9月4日(水)
 広告原稿締切 2024年9月11日(水)
 ※ 日程は変更になる場合がございます
広告仕様
 1頁 天地220mm×左右150mm
 1頁ブリード版※ 天地257mm×左右182mm
 表紙4 天地192mm×左右150mm
 表紙4ブリード版※ 天地202mm×左右160mm
 1/2頁 天地105mm×左右150mm
 ※ ブリード版は右記仕上がりサイズのほかに,広告4辺に塗り足し+3mmをご用意ください

記事広告

① 貴社にて完成原稿をご用意いただく場合
 広告上部(右上など)に『PR記事』の旨をご明記ください。編集費は発生しません。
 ② 弊社で製作する場合
 貴社でご用意いただく原稿をもとに製作します(掲載費+編集費を申し受けます)。詳細はお問い合わせください。

原稿製作に際して

- Adobe社の製作ソフト(Illustrator等, ver.2021まで対応可)にてご製作のうえ, EPSもしくはPDFにてご納品ください。また, 使用したOS・ソフトのバージョンをお知らせください
- テキストは完全アウトライン化し, カラー形式はCMYKにご設定ください(モノクロの場合はK版のみで制作, もしくはグレースケール化)
- 写真や図版は元ファイル(リンクファイル)を同送もしくは埋込処理ください
- ブリード版(裁ち落とし)は広告4辺に塗り足し+3mmをご用意ください
- トンボ等を用いて仕上がりサイズをご指示ください
- “オーバープリント設定”にご注意ください(設定次第でテキストやオブジェクトに意図せぬ色の変化や消失が起こる可能性があります)
- 原稿修正をご要望の際, 費用が発生する場合がございます

【発行元】

株式会社 羊土社
 〒101-0052
 東京都千代田区
 神田小川町2-5-1
 TEL: 03-5282-1211
 FAX: 03-5282-1212
 URL: www.yodosha.co.jp/

【広告総代理店】

株式会社 エー・イー企画
 〒532-0003
 大阪市淀川区宮原
 2-14-14
 新大阪グランドビル6F(大阪オフィス)
 TEL: 06-6350-7162
 FAX: 06-6350-7164

販売会社への情報共有について

貴社が広告掲載することおよびその広告内容を本書発行前に販売会社(理化学機器試薬等の商社や書店など)へ伝達する場合がございます。これをご希望されない場合はお申込時にお知らせください(お知らせない場合は伝達させていただきます)。

広告掲載申込書

下記の通り, 広告掲載を申し込みいたします。

年 月 日

掲載雑誌・書籍名: 実験医学増刊Vol.42No.17「全身を覆うマイクロバイオーム」

貴社名: _____ TEL: _____ FAX: _____

所在地: 〒 _____

担当者名: _____ 所属: _____ E-mail: _____

広告内容: 具体的にご記載ください
(ウェブサイトURLも可)

掲載場所: _____ 頁/枚 _____ 掲載料金: _____ 円

支払方法: _____ 支払日: _____

実験医学・羊土社書籍へ初めて広告申込する(もしくは過去に掲載したか不明)場合はチェック→



序文

長谷耕二（慶應義塾大学）

概論：マイクロバイオームの光と影

長谷耕二（慶應義塾大学）

第1章 全身に分布するマイクロバイオーム

I. 各臓器のマイクロバイオーム

- 1) ヒト健常者の腸内マイクロバイオーム 國澤 純（医薬基盤・健康・栄養研究所）
- 2) 口腔マイクロバイオーム 齋藤さかえ/清水律子（東北大学）
- 3) 皮膚マイクロバイオーム 中島沙恵子（京都大学）
- 4) 泌尿・生殖器マイクロバイオーム 近藤 豊（名古屋大学）
- 5) 呼吸器マイクロバイオーム 友田恒一（川崎医科大学）

II. 細菌以外のマイクロバイオーム

- 6) 真菌叢の動態と作用 後藤義幸（千葉大学）
- 7) ウイルス叢の動態と作用 岡田随象（東京大学）

第2章 マイクロバイオームと生理・病理との関連

I. マイクロバイオームによる生理機能調節

- 1) スポーツ・睡眠に対するマイクロバイオームの影響 福田真嗣（慶應義塾大学）
- 2) マイクロバイオームによる代謝・内分泌制御 木村郁夫（京都大学）
- 3) マイクロバイオームのリピドミクス解析 有田 誠（慶應義塾大学）
- 4) マイクロバイオームによる免疫制御 高橋大輔（慶應義塾大学）
- 5) マイクロバイオームを介した脳腸相関 金井隆典（慶應義塾大学）
- 6) 老化に対するマイクロバイオームの生理機能調節作用 松本光晴（協同乳業）
- 7) 腸内細菌による免疫細胞誘導とがん免疫応答 田之上 大（慶應義塾大学）

II. マイクロバイオームと感染制御

- 8) 腸管感染症制御とマイクロバイオーム 金井祐太（大阪大学微生物病研究所）
- 9) インフルエンザ制御とマイクロバイオーム 一戸猛志（東京大学医科学研究所）
- 10) SARS-CoV-2 制御とマイクロバイオーム 永田尚義（東京医科大学）
- 11) 【short article】HIV とマイクロバイオーム 石坂 彩（東京大学医科学研究所）

Ⅲ. ディスバイオーシスと疾患

- | | |
|------------------------------------|------------------------|
| 12) がんとマイクロバイオーーム | 山田拓司 (東京工業大学) |
| 13) 【short article】腫瘍内マイクロバイオーーム | 込山星河/長谷耕二 (慶應義塾大学) |
| 14) 関節リウマチとマイクロバイオーーム | 前田悠一 (大阪大学) |
| 15) 炎症性腸疾患とマイクロバイオーーム | 竹田 潔 (大阪大学) |
| 16) インスリン抵抗性とマイクロバイオーーム | 大野博司 (理化学研究所) |
| 17) アトピー性皮膚炎とマイクロバイオーーム | 松岡悠美 (大阪大学) |
| 18) パーキンソン病とマイクロバイオーーム | 大野欽司 (名古屋大学) |
| 19) 自閉症とマイクロバイオーーム | 内匠 透 (神戸大学) |
| 20) 多発性硬化症とマイクロバイオーーム | 山村 隆 (国立精神・神経医療研究センター) |
| 21) 【short article】腸内細菌による自己抗原ミミック | 宮内栄治 (群馬大学) |

第3章 マイクロバイオーーム研究の応用

- | | |
|---------------------------|---------------|
| 1) マイクロバイオーームを標的としたバイオテック | 金 倫基 (慶應義塾大学) |
| 2) 便移植療法 | 石川 大 (順天堂大学) |
| 3) がん免疫療法とマイクロバイオーーム | 角田卓也 (昭和大学) |
| 4) ファージ療法 | 植松 智 (大阪公立大学) |
| 5) IgA 療法 | 新藏礼子 (東京大学) |

特別寄稿 マイクロバイオーームが駆動する生物多様性

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1) 昆虫における共生進化 | 深津武馬 (産業技術総合研究所) |
| 2) 共生細菌による宿主表現型変容 | 勝間 進 (東京大学) |